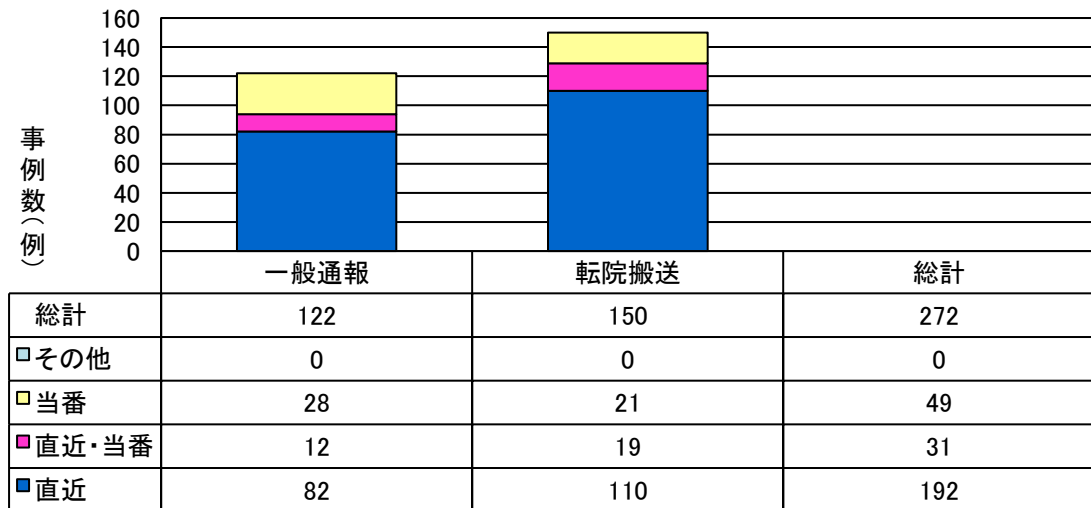


東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

令和6年4月1日から令和7年3月31日報告受理分 272件

1 搬送の種類

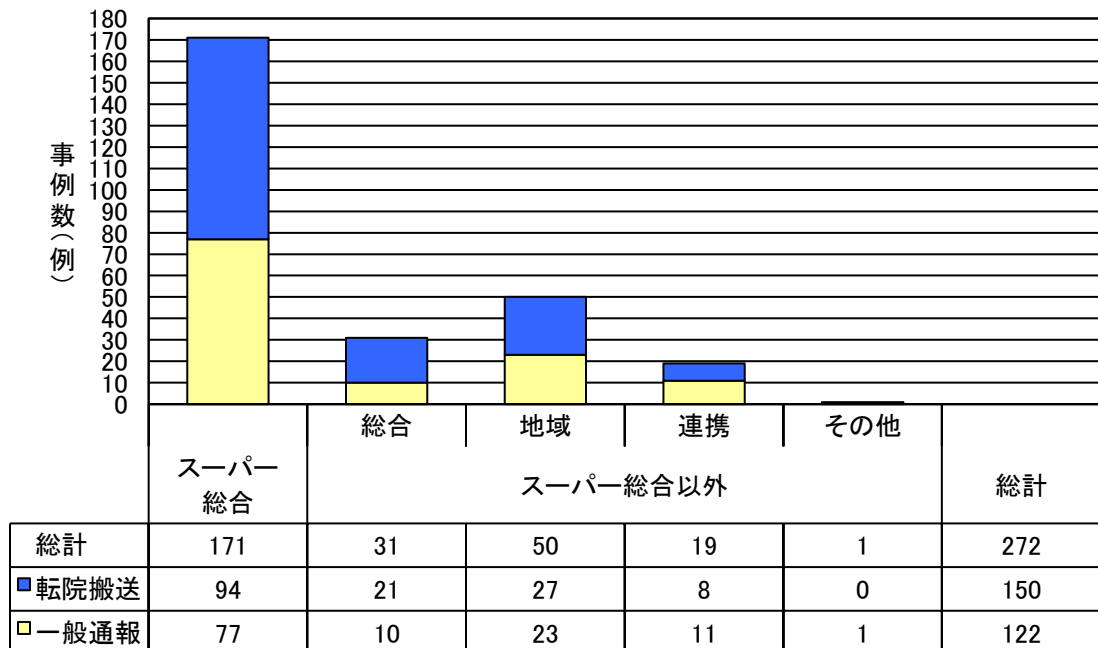
- 一般通報が122件（44.9%）、転院搬送が150件（55.1%）となっている。
 ○ 一般通報77.0%、転院搬送86.0%が、直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
 ※当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター



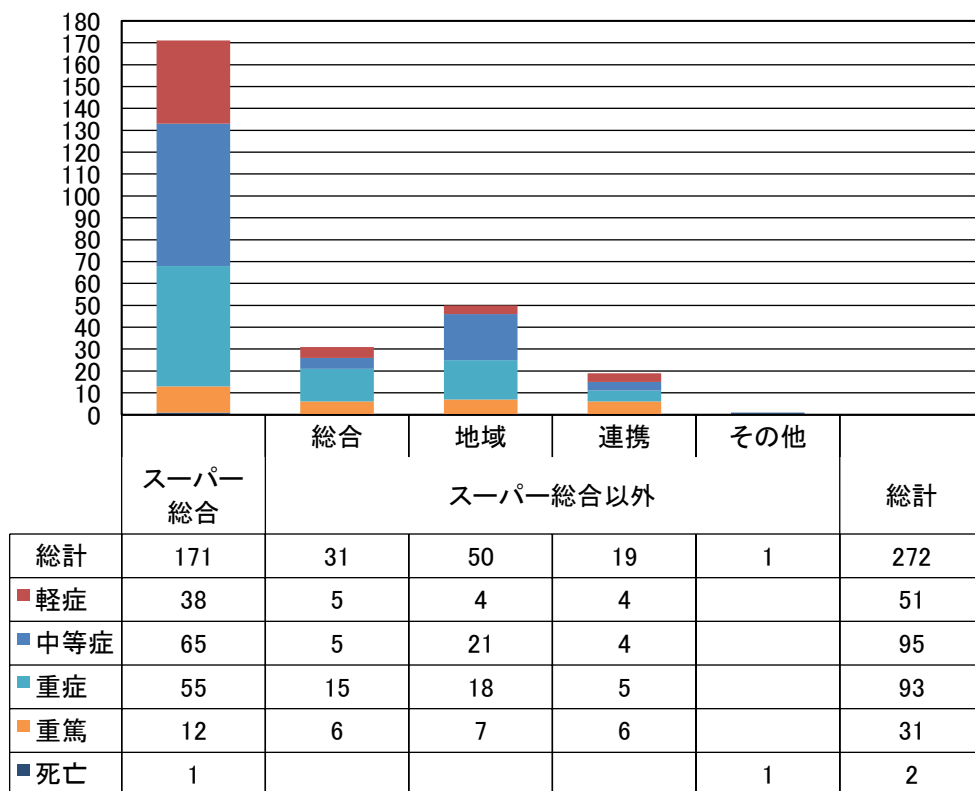
2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター6病院には、転院搬送では94件、一般通報では77件、計171件（62.9%）が搬送された。
 ○ スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、202件（74.3%）が搬送された。

(搬送の種類別)

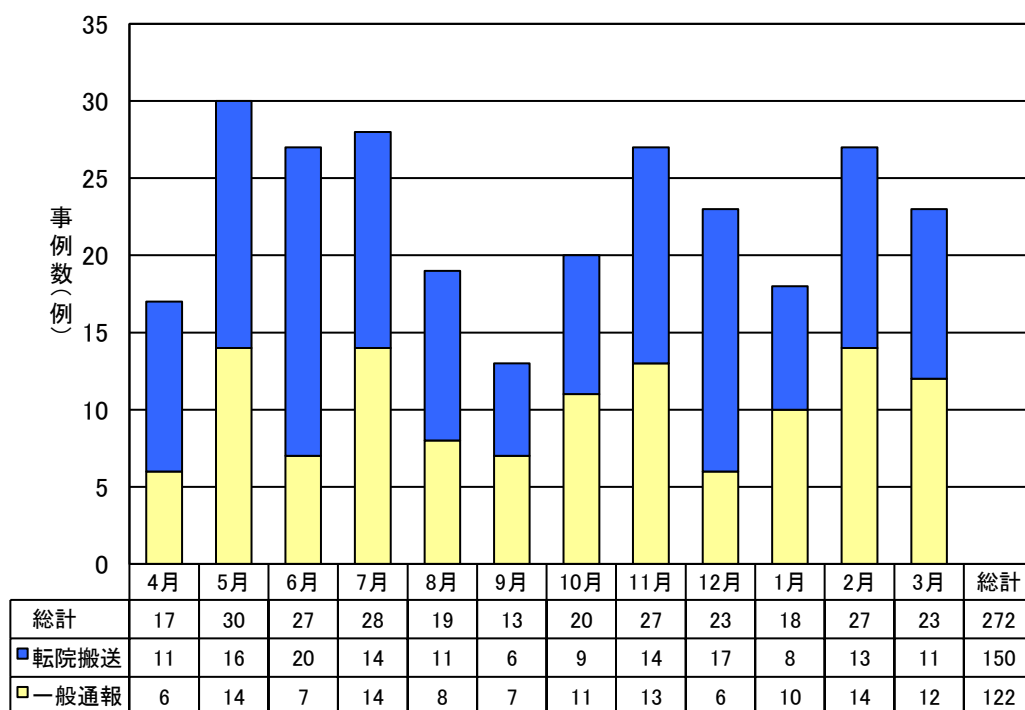


(重症度別)



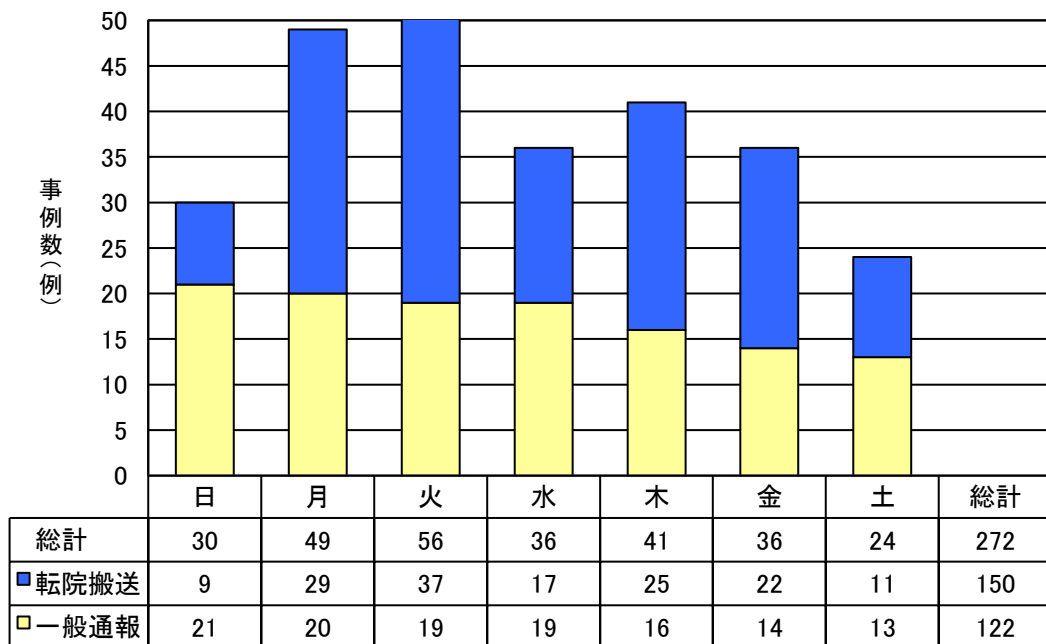
3 月別(搬送の種類)

○ 発生件数は、月平均22.7件で、5月の30件が最も多かった。



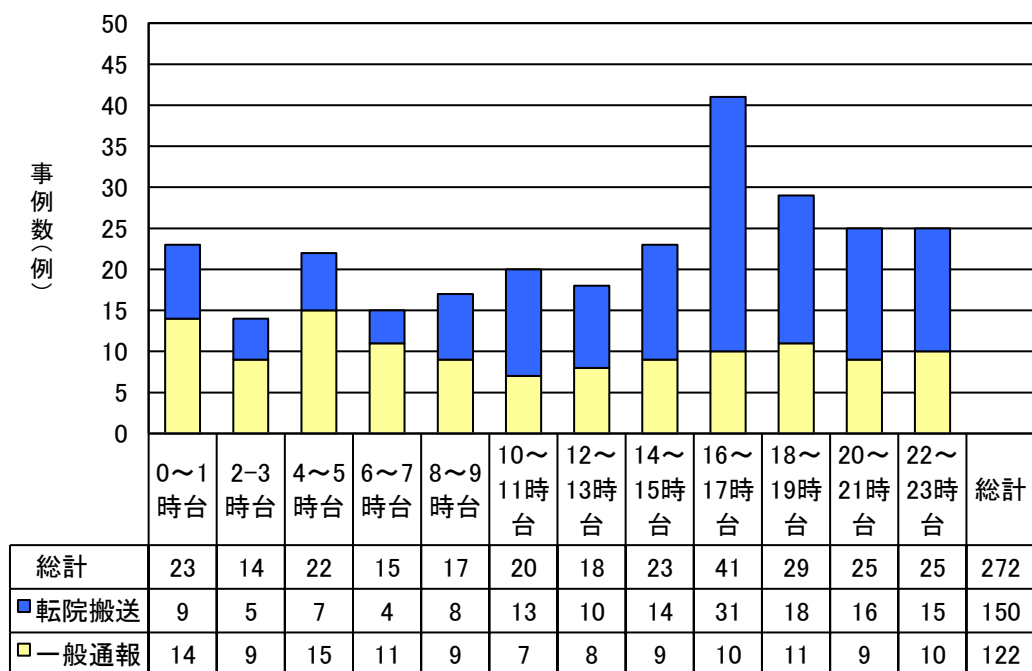
4 曜日別(搬送の種類)

○ 転院搬送は月曜日、一般通報は火曜日が最も多かった。



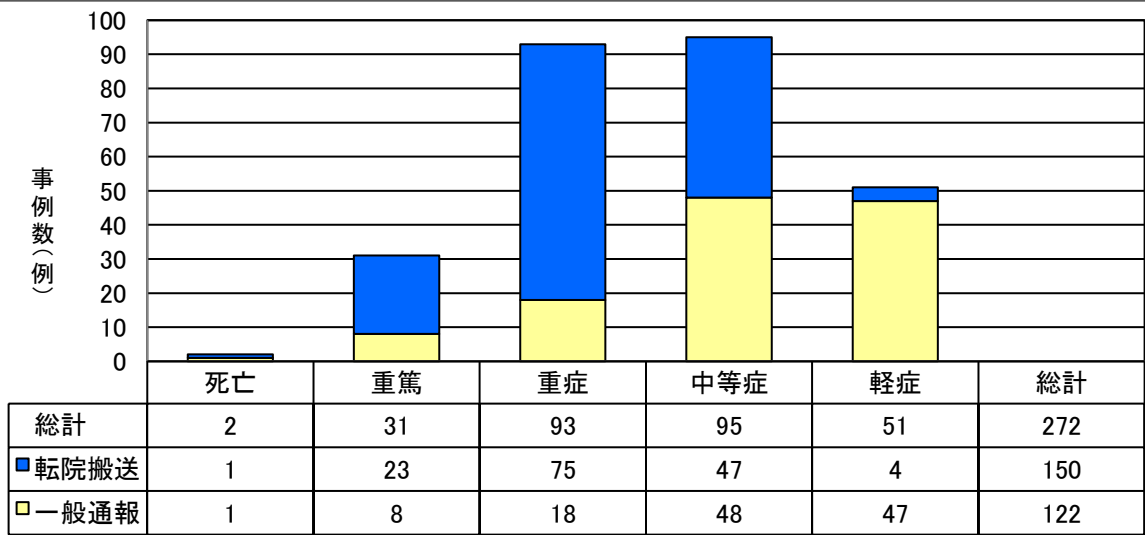
5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は16～17時台が多く、一般通報は0～1時台・4～5時台が多い。



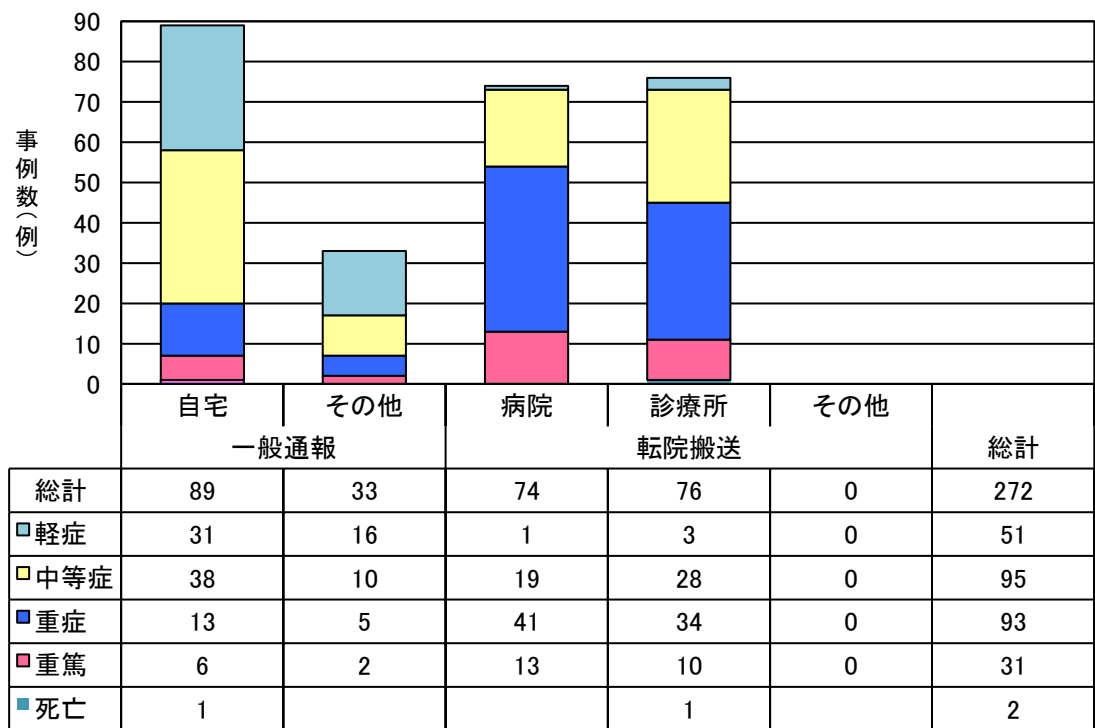
6 母の重症度(病院報告)

- 病院で確定診断が出てからの重症度では、死亡が2例(0.7%)、重篤が31例(11.4%)、重症が93例(34.2%)であり、272例中126例(46.3%)がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
- 転院搬送では重症以上の割合が高い(66.0%、99例)一方、一般通報では38.5%(47例)が軽症であった。



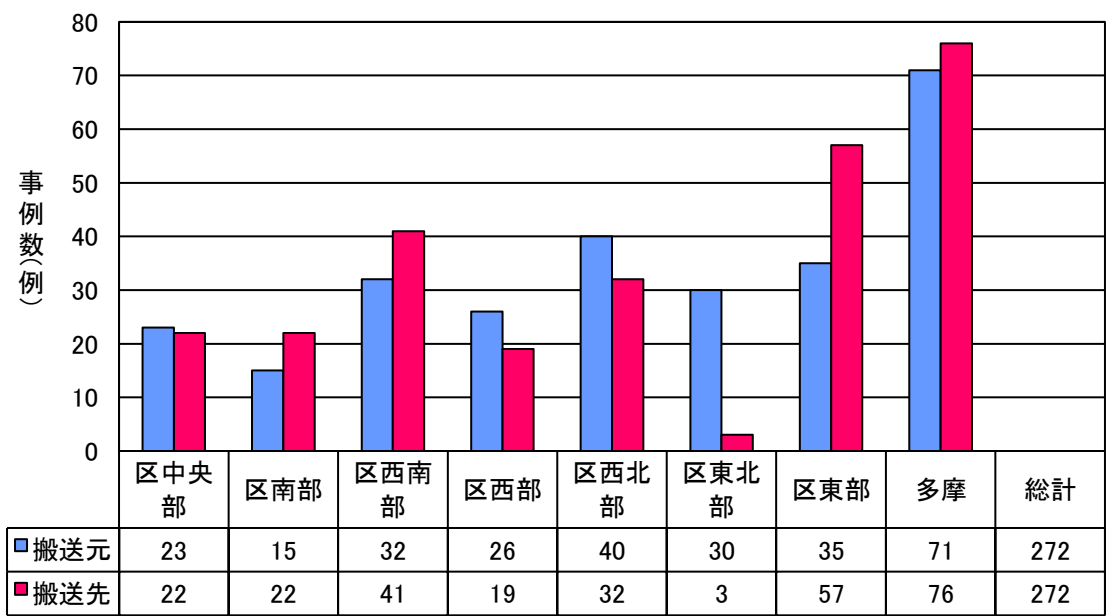
7 搬送元医療機関等

- 一般通報は自宅からの搬送が多く、89件(73.0%)であった。
- 転院搬送は、病院74件(49.3%)、診療所76件(50.7%)であった。



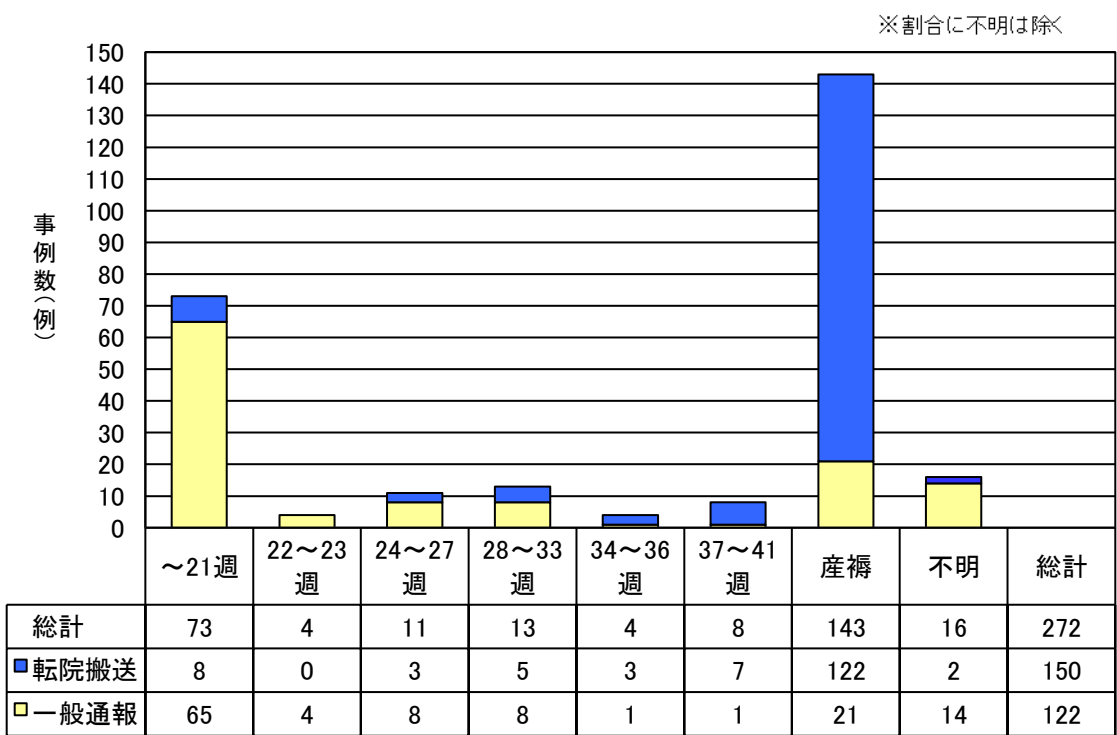
8 ブロック別搬送元及び搬送先

○ 区東部は発生に対し搬送受入れが多く、区東北部は発生に対し搬送受入れが少ない。



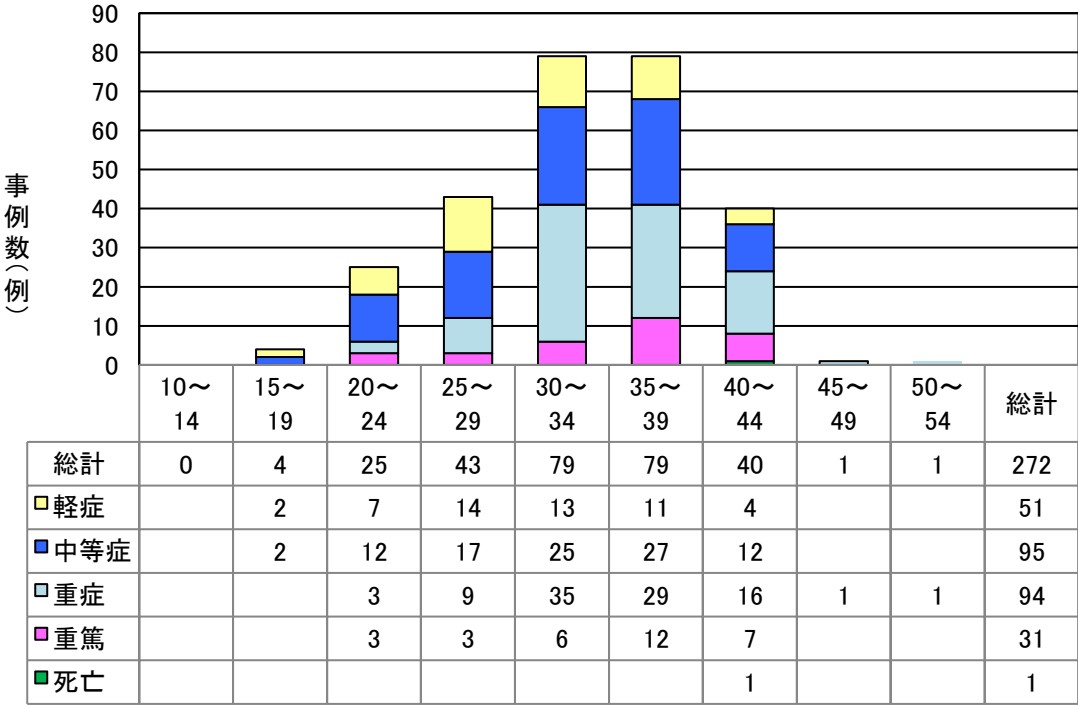
9 週数

○ 産褥が143例(52.6%)で最も多かった。



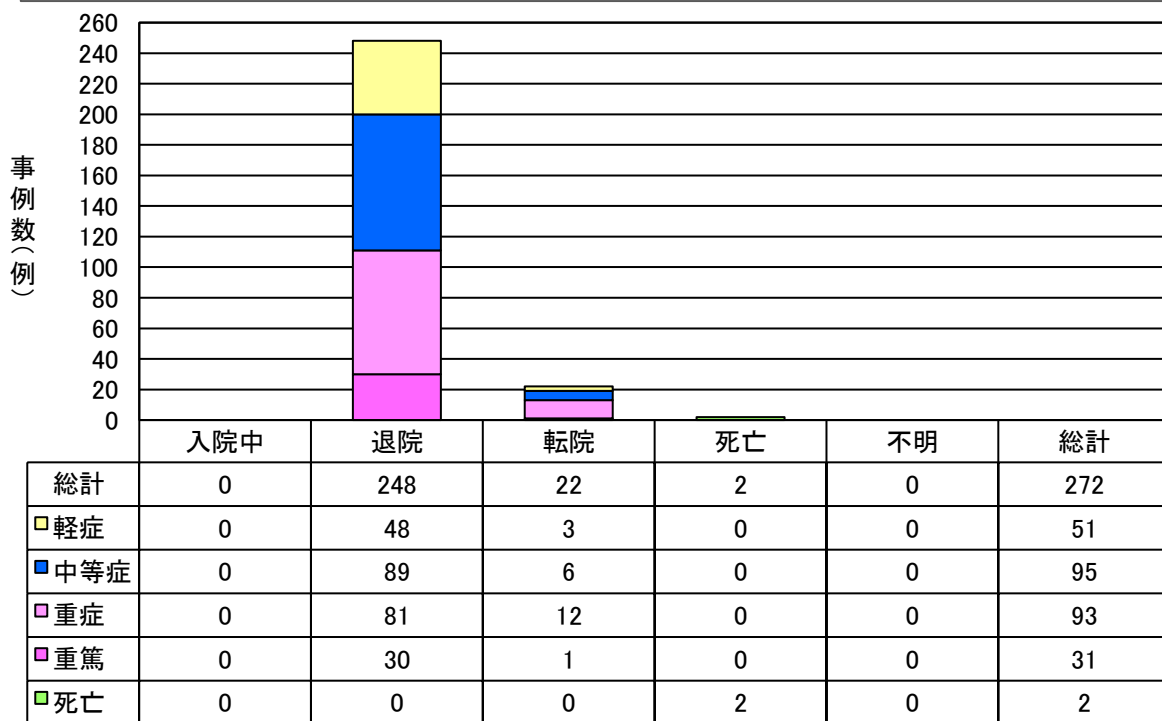
10 母の年齢

○ 年齢別で見ると30代が158例（58.1%）で、発生件数が多くなっている。



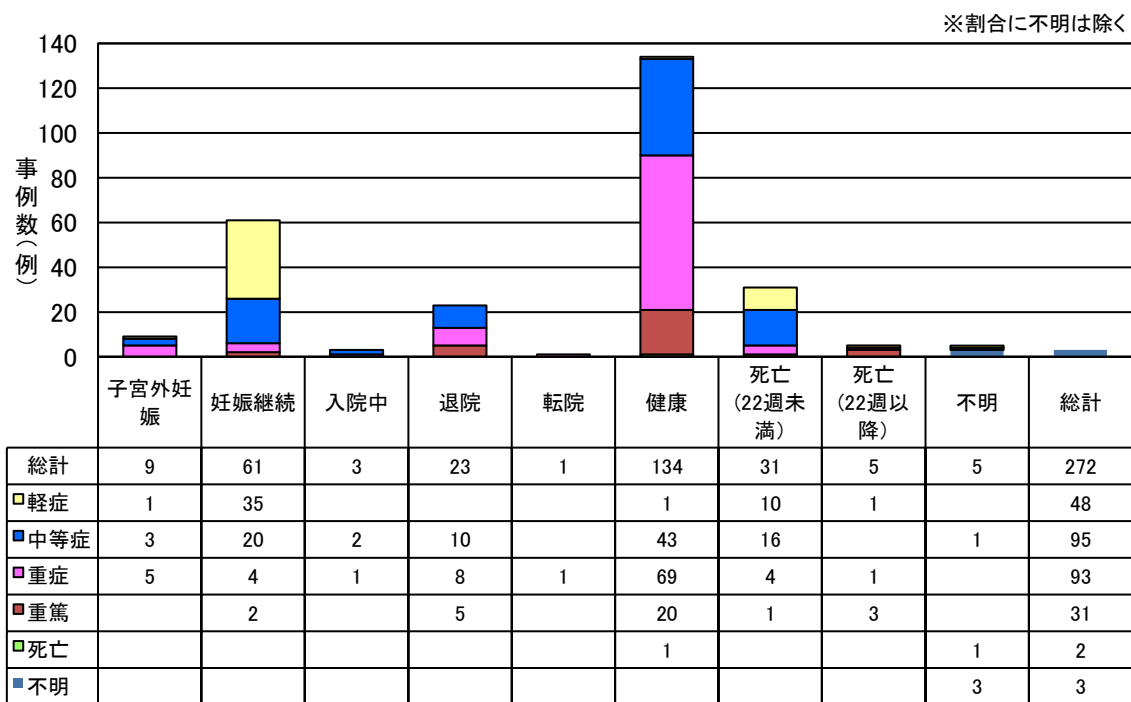
11 母の転帰(母の重症度別)

- 248例(91.2%)が退院し、22例(8.1%)が搬送元等に転院した。
○ 死亡は2件であった。



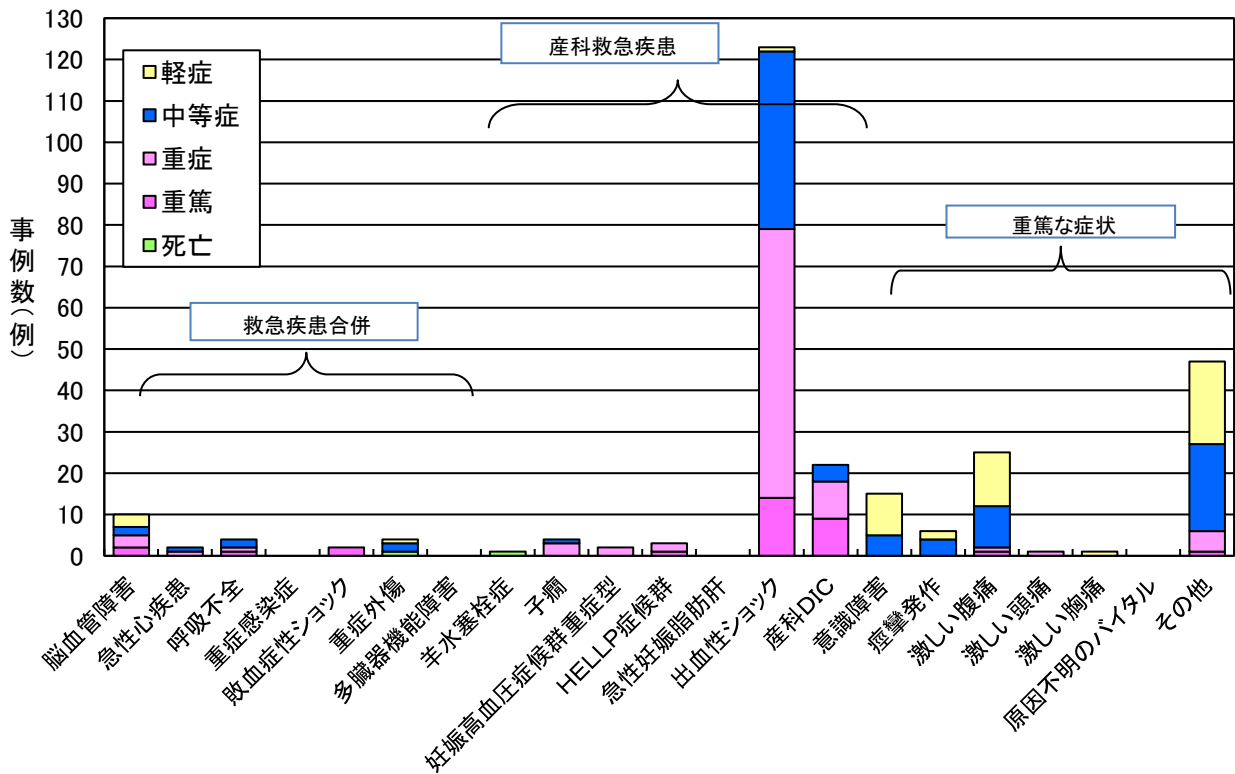
12 児の転帰(母の重症度別)

- 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が比較的多い。
- 胎児死亡(22週以降)となった事例は、5例(1.8%)だった。



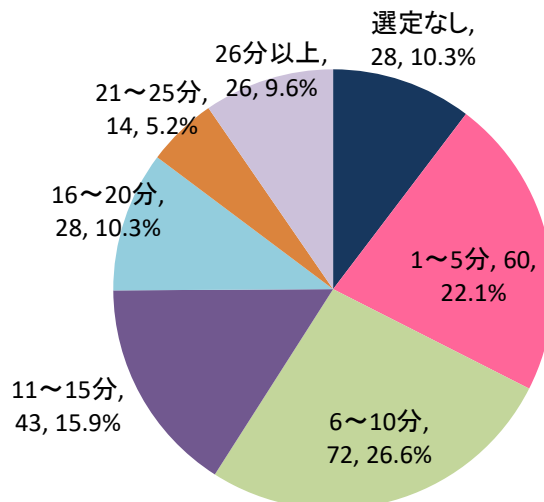
13 スーパー母体救命対象症例別疾患(診断後)

- 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、激しい腹痛、産科DICが多い。
- 死亡事例2件の内訳は、重症外傷及び羊水塞栓症であった



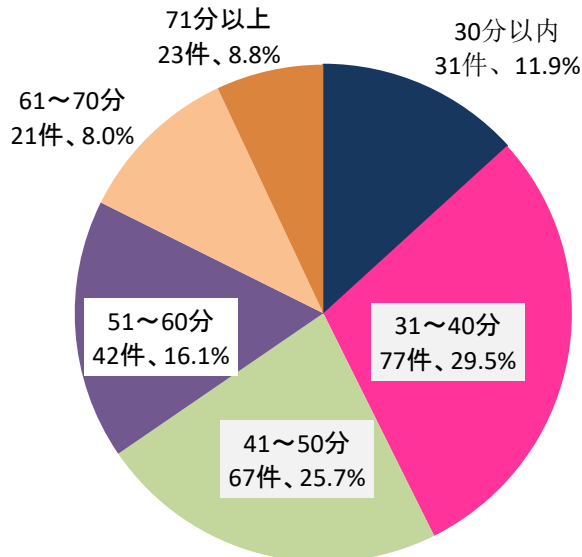
14 病院選定時間(平均12.3分、中央値10.0分、「選定なし」含まず)

- 病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均12.3分であった。
- ※選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合



15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均46.0分、中央値43.0分)

○ 60分を超えるものは48件(17.6%)であった。



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

○ 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては病院決定まで平均13.1分となっている。

